

Title	追悼号の刊行にあたって
Author(s)	望月, 太郎
Citation	メタフユシカ. 2007, 38, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/11015">https://doi.org/10.18910/11015</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 追悼号の刊行にあたって

溝口宏平教授は、一昨年、平成 18 年 6 月 22 日に逝去されました。『メタフュシカ』第 38 号は、亡くなられた溝口先生を偲び、追悼号として刊行することとなりました。

溝口先生は、昭和 58 年 4 月に教養部助教授として大阪大学へ赴任されて以来、教養部教授、文学部教授、文学研究科教授を務められたのち、平成 14 年 4 月、国立大学法人化と時を同じくして大阪大学に設立された大学教育実践センターへ教授・副センター長・教育実践研究部長として移られ、病に倒れ休職を余儀なくされるまで、この重責を担い続けられました。

溝口先生のご研究ならびに教育者としての貢献については「研究業績一覧」及び「功績覚書」においてご紹介するとおりですが、はじめに特にとりあげて記しておきたいのは、先生が近年の「大学改革」の渦中であって教養教育の再興のために傾けられた並々ならないご尽力のことです。教養部解体以降、わが国の高等教育における「教養」の比重は、その重要性が叫ばれるのとは裏腹に低くなる一方ですが、先生は一貫して教養教育の重要性を説かれ、またその実践のために最期まで働かれました。

私たちは大学で哲学研究のみならず哲学教育に携わる者として、教養教育に賭けられた溝口先生の大学人としての、そして哲学者としてのご見識を覚え、ここに謹んで哀悼の意を表したく存じます。

望月太郎